徳島新聞　２０２０年（令和２年）８月３日　月曜日　スポーツ（２１）掲載
徳島新聞社提供

第10日の成績

▽準々決勝
阿南光　8－1　富岡西
生光学園　4－0　小松島西

生光学園 完封勝ち

小松島西 打線つながらず

小松島西対生光学園　4回表、生光学園1死二、三塁、大西が中前適時打を放ち3－0とする

▽同（第2試合）

生光学園	010300000	4
小松島西	000000000	0

【評】生光学園が中盤までにリードを築き、主導権を握った。二回1死二塁から大西の左前打で先制し、四回にも大西の2点適時打と浜田の内野安打で3得点。その後は追加点が奪えなかったが、左腕長井が6安打に抑え完封した。小松島西は打線がつながりを欠き、九回1死満塁の反撃機も後続がなかった。

3試合全て完投

○…シード校として唯一勝ち残っていた小松島西は中盤までに失点し、主導権を握られたまま敗れた。右腕木本＝写真＝は、四回の3失点を振り返り「球が浮いたところを捉えられた」。今大会は登板した3試合全て完投。「後ろに同じ3年生の2人が控えてくれるので、行けるところまで投げようと臨んだ結果」と冷静に語った。

相手の先発は右サイドスローのエースではなく、スリークオーターの左腕だった。先発全員が右打者の小松島西は、内角に切れ込む球を捨てて外角球に的を絞って臨んだが、好機に一本が出なかった。2安打と気を吐いた3年の3番川野は「悔しいけど、仲間と励まし合って練習してきたおかげで成長できた」とチームの絆に感謝した。

各選手 役割果たす

生光学園

ここ一番の集中力が光った打撃と、エースに代わってマウンドを託された左腕の好投。生光学園は各選手が投打できっちりと役割を果たし、準決勝への切符をつかんだ。

バットでチームに貢献したのは、3安打3打点の7番大西。二回の先制打に続き、四回には前進守備の内野手の間を抜く鮮やかなセンター返しで貴重な追加点をたたき出した。「いつもよりヒットゾーンが広いとプラスに捉えた。イメージ通りのバッティングができた」と喜んだ。

先発した左スリークオーターの長井も危なげない投球で期待に応えた。右打者の外角から内角に食い込む投球で相手打線を翻弄（ほんろう）。完封劇を振り返り「エースの松本を休ませ、チームが良い形で準決勝に進めるよう完投するつもりだった。貢献できてうれしい」と満足そうだった。

3年生だけ試合ごとにベンチ入り選手の入れ替えができる今大会。県内最多の3年生28人を抱える同校は、準々決勝までの3試合で27人が一度は経験した。残っていた1人もベンチ入りできる見通しとなった次戦の相手は、2年前の夏の県大会決勝で惜敗した鳴門。斎藤主将は「絶対に勝ちたい」とリベンジを誓い、闘志をみなぎらせた。（石津遼）

【生　光】		打安点振球
⑦	浜　田	51100
⑥	吉　田	40010
④	渡　邊	31001
4	千　田	00000
③	三浦玄	31011
⑨	斎　藤	30001
⑤	大　野	32000
⑧	大　西	43300
②	和　田	20021
①	長　井	30000
	犠併残	
	306	308444

【松　西】		打安点振球
⑦	大　鹿	31001
③	近藤翔	40020
⑧	川　野	42020
⑥	村　田	40000
⑤	藤　井	31001
②	柳　生	10002
①	木　本	42020
⑨	髙　木	30000
H	山﨑悠	10010
④	櫻　田	20000
H	山﨑稜	10010
4	近藤斗	10000
	犠併残	
	119	316084

▽二塁打＝渡邊、大西▽ボーク＝長井▽失策＝生1、松0▽盗塁＝生3（大野、大西2）松1（大鹿）▽試合時間＝2時間17分

投　手	回	打	安	振	球	責
長　井	9	36	6	8	4	0
木　本	9	37	8	4	4	4